

第 29 回ジュニア陸上競技・チャレンジカップ東京

競 技 注 意 事 項

1 規則について

本競技会は 2024 年度日本陸上競技連盟競技規則及び本競技会要項・本競技注意事項により実施する。

2 競技場の入退場及び競技者受付について

- (1) 来場者（競技役員を除く）の入退場口は2階正面エントランスのみとする。
- (2) 開門時刻は 8 時 00 分とする。また、状況により競技者のビブスを受け取る指導者およびその日の第 1 種目に出場する競技者とその同伴者を優先的に入場させる場合がある。
- (3) アスリートビブス及びプログラムについては、団体ごとに指導者が受け取ること。また、ウォーミングアップエリアに立ち入る指導者は受付でリストバンドを受け取ること。
- (4) プログラムの記載事項（氏名、学年、所属等：申込の際に送信されたデータをそのまま使用している。）に間違いがあった場合には、8 時 30 分、または出場する競技の 2 時間前までに T I C に申し出ること。
- (5) プログラムは残部がある場合に限り、T I C で販売する。

3 ウォーミングアップについて

- (1) ウォーミングアップは駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場内及び補助競技場で行うことができる【競技区域およびスタンド裏のプロムナード（メインスタンド裏を除く）】。競技役員の指示に従い、（競技運営上、制限することがある。）指定された場所・時間の範囲内で事故防止に万全を期して行うこと。

練習可能日	補助競技場
(1 日目) 5 月 4 日（土・祝）	8:30～15:30 (スパイク、ハードルは使用不可)
(2 日目) 5 月 5 日（日・祝）	8:30～16:30 (スパイク、ハードルは使用不可)

- (2) 競技区域内に入場できるのは本競技会に参加する競技者（必ずアスリートビブスを身につけること。）および専用のリストバンド[受付にて配付:上記 2(3)参照]を装着した指導者に限定する。
- (3) ウォーミングアップには周回競技時を除きバックストレートを使用できる。(ハードル練習は、下記参照) 移動する際はスタンド裏の競技場プロムナードの階段から A ゲートを経てダッグアウト下通路を通ること。終了後は A、B どちらのゲートから退場してもよいが、競技役員の指示があった場合は従うこと。
- (4) 必ず指導者 1 名が監督し、逆走や走路にとどまる、トラックの内側（フィールドエリア内）に立ち入る等、危険をとまなう行為を避けること。また、開催両日とも、9 時 15 分まではホームストレートの使用も可能とする。
- (5) ハードルの設置については以下のとおりとする。
1 日目： 12:55 ～ 14:20 バックストレート 6、7 レーン（60mHのみ）
2 日目： 11:50 ～ 13:35 バックストレート 6、7 レーン（80mHのみ）
- (6) リレーのバトンパスの練習に使用したマークは終了後、必ず取り外して退場すること。
- (7) 砂場及び芝生他、競技場内の指定された場所以外でのウォーミングアップは禁止する。特にメインスタンド裏プロムナード上でのウォーミングアップは通行スペースの確保と危険防止の観点から厳禁とする。中央広場において投てき物（ボール等）を投げることについても禁止する。

4 招集について

- (1) 招集所の設置場所は、100mスタート地点後方のAゲート裏とする。招集所へ移動する際はスタンド裏の競技場プロムナードの階段を通行すること。
- (2) 競技者はそのまま競技ができる服装にアスリートビブスをつけて集合し、荷物はスパイク、水筒やペットボトル、タオル、帽子、防寒着（必要に応じて）等、最低限にすること。また、シューズ袋など類似品の多いものについては記名や目印をつける等、他者の持ちものと取り違えることのないよう、注意すること。なお、トラック競技、フィールド競技とも競技場設備およびスパイクピン保護の観点からスパイクの着脱は競技場所で行うこととする。
- (3) 各競技の招集開始・完了時刻は、タイムテーブルに記載のとおりとする。遅れた場合は競技に出場できないので、時間を厳守すること。
- (4) 代理人による招集は一切認めない。
- (5) 招集の際、アスリートビブスとスパイクピンのチェックを受け、トラック競技に出場する競技者・チームは腰ナンバー標識（1枚）を受け取ること。
- (6) リレー競技に出場するチームは、招集完了時刻（予選では各カテゴリーの第1組の当該時刻を基準とする。）の1時間前までに（タイムテーブル参照）オーダー用紙（招集所にて配付する他、プログラム巻末に掲載のものも使用可。）を競技者係へ提出すること。オーダー用紙の提出が遅れた場合は受理しない。また、一度提出したオーダーは主催者の任命した医師の判断が無ければ変更を認めない。
- (7) 指導者および同伴者の招集所への立ち入りは認めない。また、招集所入り口付近の混雑を避けるため特に支障のないかぎり競技者を送り届けた後はその場にとどまらず、直ちにスタンド等へ戻るよう努めること。

5 アスリートビブスについて

- (1) 当日、T I Cにて、アスリートビブスを配付する。ユニフォームまたはTシャツ等の胸と背に、そのままの大きさを四隅を安全ピンでとめてつけること。ただし、跳躍競技の競技者は胸か背のどちらか一方でもよい。
- (2) トラック競技出場者には、招集時に腰ナンバー標識（写真判定のために使用。ステッカータイプ）を支給する。（リレーは第4走者のみ）右側の腰の高い位置に記載の数字が身体の真横の位置となるよう注意してつけること。
- (3) アスリートビブスを紛失した競技者は、T I Cにて再発行を行う。ただし、再発行にあたっては実費を徴収する。

6 更衣室の利用について

- (1) 更衣室の利用は本競技会に出場する競技者に限定する。3 A B更衣室を男子用、2 A B更衣室を女子用とする。
- (2) 更衣室への移動の際はスタンド正面入口に入って左側の階段を利用すること。なお、屋内廊下の通行は禁止しないが、招集を受ける際はAゲートより招集所入り口へ向かうこと。
- (3) 更衣室への付き添いは競技者が1人で移動や更衣ができない場合のみ、1競技者につき1名に限り許可する。

7 競技および競技方法について

- (1) トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載のとおりとする。
- (2) 予選のあるトラック競技の決勝のレーン順は記録結果携帯速報サイトにて発表する。
- (3) 競技しやすい靴をはくこと。素足での出場は認めない。スパイクシューズを使用する際（全種目）は、全

天候トラック用ピンで長さは9mm以下を使用すること。なお、TR5.2及び「競技用靴に関する規程」のうち、靴底の厚さに関する規定については適用しない。

- (4) 50m、60m、60mH、3・4年4×100mR第1走者のスタートはクラウチング、スタンディングのどちらも可、100m、80mH、5・6年4×100mRの第1走者についてはクラウチング、800mはスタンディングとする。スターティングブロックの使用は男女とも5年、6年生の100mおよびリレーのいずれも決勝に限定する。使用する場合はセッティングを速やかに行うこと。
- (5) スタート動作の指示は英語で行う。（“On your marks.”、“Set.”）
- (6) 同一競技者が2回不正スタートした場合は失格とする。ただし競技には参加させ記録は参考記録とする。
- (7) ハードル競技は以下の規格により行う。

種目	スタート～ 第1ハードル	高さ	インターバル	台数	最終ハードル～ フィニッシュ
3・4年 60mH	12m	60cm	6m	7台	12m
5・6年 80mH	13m	70cm	7m	9台	11m

- (8) 800m以外のトラック競技では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走り他のレーンに入らないよう注意すること。
- (9) 800mのスタートは、オープンで行う。
- (10) 男女混合4×100mRは、5・6年男女各2～3名でエントリーを行いそのうちの男女各2名が出場する。なお、走順は自由とする。
- (11) リレーのチーム編成についてのルール(TR24.10)の定める範囲における当日のメンバー変更を可能とする。
- (12) リレー競技における第1、第2、第3走者はテイクオーバーゾーン内でバトンパス完了後も自分のレーンにとどまり、競技役員の指示により走路外に出ること(危険防止のため)。リレーのマークは各チームで用意し、レース後必ず取り外すこと。
- (13) リレーチームはできるだけ同じユニフォームを着用のこと。
- (14) 男女とも800m、60mH、80mHは決勝のみとし、タイムレースで順位を決定する。男女とも1年50m、2年50m、3年60m、4年60m、5年100m、6年100m、4×100mリレーは予選記録の上位8名(チーム)を決勝進出者(チーム)とする。同記録がありレーンが不足するときは、写真判定主任が記録を1/1000秒で比較し進出者を決定するが、それでも決まらない場合は抽選を行う。場内アナウンスで告知するので当該競技者(または代理の者)は速やかに本部に来ること。指定された時刻までに来なかった場合はその権利を放棄したものとする。
- (15) 走高跳のバーの上げ方は以下のとおりとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
男子	1m00	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	以後、最後の1人になるまで3cmきざみ
女子	1m00	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m33	1m36	以後、最後の1人になるまで3cmきざみ

ただし、審判長の判断により変更する場合がある。

- (16) 走高跳の試技は「はさみ跳び」で行うこと。マットへの着地は足裏からとし、背・腰からの着地は無効とする。
- (17) 男女とも5年、6年走高跳の第1位決定のためのバーの上げ下げは2cm刻みとする。
- (18) 走幅跳、ジャベリックボール投は3回の試技で順位を決定する。
- (19) ジャベリックボール投はやり投ピットで行い、投てき角度はやり投と同じとする。助走距離は15m以内でスパイクシューズを使用してもよい。使用する際は全天候トラック用ピンで長さは12mm以下を使用す

ること。試技の際にはボール本体を持ち（羽だけを持って投げることは禁止する。）オーバーハンドで投げること。

(20) ジャベリックボール投は、**連続3回の試技**を行う。

(21) 本競技会で使用する用器具は、すべて主催者が用意したものとする。

8 競技区域からの退場について

(1) 50m、60m、100m、60mH、80mHに出場する競技者およびリレーの第4走者は競技終了後フィニッシュ地点から屋内廊下を通してスタート地点に戻り、それぞれの荷物を回収してAゲートから退場すること。ホームストレート側のダッグアウト下通路の通行は禁止する。なお、屋内廊下を通行する際はスパイクを脱ぐこと。

(2) 第1走から第3走までのリレー出場者は競技終了後、時計回りにBゲートへと向かい、退場する途中でそれぞれの荷物を回収すること。

(3) 800mについては終了後、荷物を回収してBゲートから退場すること。

(4) フィールド種目の競技者については、いずれも競技終了後、競技役員の誘導により退場すること。

(5) 上記(1)～(4)の経路を基本とするが、競技役員の誘導がある場合はこの限りではない。

9 抗議について

抗議は当該種目の結果が正式に電光掲示板に発表された時刻から予選では15分以内、決勝では30分以内にチームの公式な代表者が口頭でT I Cに申し立てること。

10 表彰について

各種目1～3位の入賞者（チーム）を対象に表彰式にて表彰を行い、賞状とメダルを授与する。

該当者は1階メインスタンド下中央付近に設ける待機場所に集合すること。

また、4～8位には賞状をT I Cにて授与する。できるだけ各団体の代表者がまとめて受け取ること。

表彰式の実施、賞状の発行はともに競技の正式結果が電光掲示板に発表されてから概ね30分後を目安とする。

11 その他

(1) 競技中の事故における怪我については主催者が応急処置を行うが、責任は負わない。

(2) 気候や時間帯による気温の変動や熱中症に注意すること。

(3) 貴重品等は各自・各チームにて管理し、盗難・置き引き等に十分注意すること。

(4) 記録証は1枚300円で発行する。希望者は1日目は15時まで、2日目は15時30分までにT I Cにて申し込みを行うこと。

(5) 届けられた拾得物は、T I Cにて競技会終了時まで保管する。

(6) 大会運営、競技に関する不明な点はT I Cへ問い合わせること。

(7) 競技中の助言（指導）は、競技場内のスタンドからのみ行うことができる。

(8) 盗難等の防止のため更衣室は更衣のみに使用し、荷物は置いたままにせず各自が責任を持って管理すること。

(9) 本競技会においてゴミ箱の設置は行わない。競技場滞在中に出たゴミはすべて持ち帰ること。

(10) 記録はその都度、アナウンス、電光掲示板及び記録結果携帯速報サイトに発表する。

第29回ジュニア陸上競技・チャレンジカップ東京の記録結果携帯速報サイトをご利用ください。

競技終了後に、次のサイトにアクセスすれば、ご覧になれます。

<http://gold.jaic.org/jaic/member/tokyo/top.htm> QRコードもご利用下さい。

競技会コード 24 13 0920 競技場コード 132090

